Campus 600部持ち去られる

企画団体 AMUSEが関与

十一月はじめに、十月二十七日発行の全代会（全学学類専門学群代表者会議）広報誌Campus百号が各配布場所から何者かにより大量に持ち去られる事件が発生した。しかし、事件はその後一週間ほどで、急展開しCampus関係者とAmuseとの間の水面下の交渉で、犯人や動機などはいっさい明かされぬまま、解決とされた。Campus百号はその後に批判記事を黒塗りして、配布場所に戻った。関係者は皆「円満解決」としている様様だが、公式な出版物の盗難事件の重大性、メディアに対する認識の甘さの問題は解決されないままだ。さらに、Amuseへの批判がこのように扱われるに至った点が不可解で、学園祭における企画団体の位置づけ、全代会組織の歪みが浮かび上がってくる。（二面に解説）

▲第一学群配布BOX

「回収」事件は、第一学群（一学）の配布場所から始まっている。一学では最初の一枚（表紙と裏表紙）だけがはがされているのが発見され、その数日後にはほかのほとんどの配布場所からなくなった。その部分に学園祭後夜祭ディスコを担当した「Amuse」への批判記事が掲載されていたことから、Campus関係者は「Amuseの関係者によるものでは」と推測していた。

そのような疑惑がもたれる中、事件後約一週間の十一月九日、Amuseと全代会の間に非公式な話し合いが持たれ「互いに納得した」（全代会関係者）ことから、問題部分が黒塗りされ、訂正文が挟まれた同紙が配布場所に並んだ。事件自体は両者の話し合いで一件落着とされた。

今回持ち去られたCampusという発行物は、全代会下部組織、広報委員会が編集しており、十ページ程の紙面で通常は全代会の組織やその審議内容、学生に関係ある大学の動きなどを伝えている。月に一号程のペースで発行され、各学群棟・学生宿舎などの配布場所に合計九百部ほどが置かれている。

問題の第百号は学園祭特集。この「回収犯」を刺激したと見られているのが、裏表紙の編集後記中のコラムである。企画団体によって筑波大学最大で昨年もディスコを担当したAmuseを名指しで批判、彼らが主催した後夜祭の野外ディスコに対し「名ばかりのディスコ」「頭の悪そうな人達が格闘技のようなものをやり始めた」「掃除をすることも知らずに消え失せた」などと、かなり激しい調子であった。

ここ以外に第百号に問題となるような箇所は見られず、第一学群の配布場所でこの文章のある裏表紙だけが持ち去られるという不自然さから、一部の全代会関係者のあいだで、Amuseへの疑いが噂されていた。

本紙がAmuseの小寺以作代表（国際二年）に事件への関与について聞いたところ、関係者（が犯人）だろうが、『ご自由にお持ち下さい』というものを持っていったのだし、読んでいる人も少ないだろうから犯人を追求する気もない。個人のモラルの問題だろう」とコメント。犯人がAmuse関係者であることを事実上認めた。また、批判に対しては「大きなことをすればマイナスの反応もある。構っている時間がもったいない」としている。

一方、Campusの発行責任者増田一郎さん（芸術三年）は事件に関して、「大変困っており、対策を検討中」とし、実際の記事の執筆者への取材は断られた。増田さんは「記事に間違いがあること対しては）目を通して修正を加えたが、（自分の）文才がなくてこのようになった」と述べている。また、同紙を監督する立場にある全代会議長団は「忙しくて目を通せなかった」とノーチェックを認めた。そのうえで、橋本泰敏全代会議長は「頭にきてます。早く返してほしい」と犯人に対して怒りのコメントを残している。

その後「回収」事件から一週ほど過ぎて、Amuseと全代会の非公式な話し合いが行われたが、取材は行われず、内容は不明。結果として話し合いの二日後に、問題部分が黒く塗り潰したCampus第百号が「記事に間違いがあること」が後で判明した」という紙を挿み、各配布場所に並んだ。話し合いの結論等についても、明らかにされていないが、ある全代会関係者は「穏健に解決できた」と評価している。

なお、問題部分の内容についてAmuse側は「事実関係に間違いがある」と否定しており「掃除をすることも知らずに立ち去った…」の部分については、紙吹雪の清掃をできる限りおこない、終了を学実委にチェックを受けてから解散したと述べている。この点は学実委にも確認がとれており、このことがCampusに黒塗りの訂正をさせた根拠になっていたと思われる。（篠辺）

⊙企業推薦依頼問題

今年度の経営システム科学専攻の入試で、受験に先立ち教官らが企業を訪問して、受験生を推薦するよう求めていたことが明るみにでた。これは、募集要項に記載されてない方法であった。

同専攻では、様々な職種から学生を受け入れるため企業に、これまで志願者の少なかった職種の受験生を推薦してもらうことを取り決めたが、来年度以降は中止する方向であるという。

同専攻の今年度入試は昨年十一月二十七、二十八の両日に行われ、二百八十八人のうち、四十二人が合格した。

平成元年に同専攻が発足して以来、受験生は年々増え、定員不足に陥っていたとは、到底考えられない。また、企業に推薦を依頼することは募集要項に載っておらず、これでは受験生から「推薦入試があるのか」とクレームをつけられても大学側には反論の余地はない。ここでも同専攻のスタンドプレイが目立つ。

なお、今回の一件は八月二十九日付の全国紙の夕刊に掲載されたが、この内容について大学側は、「この件については、お答えいたしかねる」（広報調査課）

日本名門酒会員
娘
ヒトリムスメ
㈱山中酒造店
代表取締役 山中貞次郎
結城郡石下町新石下187
TEL 0297-42-2004㈹
FAX 0297-42-6977

論文製本
図書館製本・各種紙工品
箔押印刷
沢辺茨城堂
●各種製本は一冊からご希望の日数にお応えできるよう努力いたします
(0298) ☎64-0295

編集・発行
筑波大学学生新聞会
代表 渡辺 昭久
〒305 茨城県筑波学園郵便局私書箱29号
TEL 0298-52-4460
振替 00360-9-31450
1部100円

十二月号

筑波學生新聞

発覚する事実の数々

「TPの疑惑から」SPECIAL

本紙では五月号から数回にわたり、筑波大学大学院夜間修士課程（大塚地区）の一つとして平成元年四月に発足した。この大学院では、生涯学習を念頭に置き、社会人が学べるよう、授業は基本的に夜間に行われる。また、入試は、入学後何をしたいかをまとめた研究計画書やそれをもとにした面接、論文などで、倍率は数十倍に登る。マスコミにも度々取り上げられ、社会的にも評価が高い。

同専攻の最初の責任者であった森村英典教授（現日本女子大教授）は、筑波フォーラム（1990年3月）の中で、「この芽を大切に育て、社会人が自由に勉学出来る世の中にしたい」と夜間大学院への熱き思いを語った。しかし、先駆的な大学院も、筑波大学の独特な制度の中では、その位置付けは曖昧なものとなっている。そして、その隔たりが様々な問題を生み出している。

今月号は連載「一つの疑惑から」を拡大して、一連の疑惑の本質に迫る。

（奥山・神谷）

大塚夜間大学院に暗雲

⊙ウェーバー サバティカル制度

「ウェーバー」と「サバティカル」。この二つの言葉をご存じの方はどれだけいるだろうか。

一定の期間、教授が普段の業務を離れて研究に打ち込むときれるサバティカル制度。学生がすでに講義や演習のレベルに達していれば、それらに出席することなく一定の単位を取得できる制度は、各学期ごとに、休暇をとる教官が五～八人ごとに割り振られており、各教官は一年のうち三分の一は授業をしなくてもよいこととなる。多いときには専攻の三分の一に及ぶ教官がいなくなる。ウェーバー制度は、基礎科目の一部と専門科目が対象となっており、認定されるのは十単位までとなっている。認定を受けたい学生は、教務担当教官に申し出ることにより、各科目の担当教官が主に面接で判断し、認定する。

これらの制度は、一歩間違えば「指導を受けたい時に受けられない」「自分に見合ったレベルの授業がない」など、学生が不利益を被ることが懸念される。

しかも、その内容は大学院使覓に記載されていたに過ぎない。

しかし、大塚地区の大学院の意義を問われる制度である。

これらの制度は、一歩間違えば「指導を受けたい時に受けられない」「自分に見合ったレベルの授業がない」など、学生が不利益を被ることが懸念される。

しかも、その内容は大学院使覓に記載されていたに過ぎない。

しかし、大塚地区の大学院使覓に記載されていたに過ぎない。

もかかわらず「ウェーバーなどという制度は聞いたことがない」（文部省 大学改革推進室）「ウェーバー、サバティカルのどちらも行われていない」（筑波大学 広報調査課）と、大学本部と経営システム科学専攻の連携の不足、同専攻の独断専行ぶりが目立っている。

⊙論文著者名 すりかえ疑惑

本紙でこれまで報じてきた「論文著者名すり替え疑惑」もまた、経営システム科学専攻で起こった問題である。

同専攻の卒業生である大久保由紀子さんが、事前に何の断りもなく論文の著者名順序を入れ替えられたとして、平成五年八月、共同執筆者である同専攻の吉田敏弘講師や論文を掲載したCampus第百号が「記事に間違いがあること」が後で判明した」という紙を挿み、各配布場所に並んだ。話し合いの結論等についても、明らかにされていないが、ある全代会関係者は「穏健に解決できた」と評価している。

なお、問題部分の内容についてAmuse側は「事実関係に間違いがある」と否定しており「掃除をすることも知らずに立ち去った…」の部分については、紙吹雪の清掃をできる限りおこない、終了を学実委にチェックを受けてから解散したと述べている。この点は学実委にも確認がとれており、このことがCampusに黒塗りの訂正をさせた根拠になっていたと思われる。（篠辺）

⊙企業推薦依頼問題

今年度の経営システム科学専攻の入試で、受験に先立ち教官らが企業を訪問して、受験生を推薦するよう求めていたことが明るみにでた。これは、募集要項に記載されてない方法であった。

同専攻では、様々な職種から学生を受け入れるため企業に、これまで志願者の少なかった職種の受験生を推薦してもらうことを取り決めたが、来年度以降は中止する方向であるという。

同専攻の今年度入試は昨年十一月二十七、二十八の両日に行われ、二百八十八人のうち、四十二人が合格した。

平成元年に同専攻が発足して以来、受験生は年々増え、定員不足に陥っていたとは、到底考えられない。また、企業に推薦を依頼することは募集要項に載っておらず、これでは受験生から「推薦入試があるのか」とクレームをつけられても大学側には反論の余地はない。ここでも同専攻のスタンドプレイが目立つ。

なお、今回の一件は八月二十九日付の全国紙の夕刊に掲載されたが、この内容について大学側は、「この件については、お答えいたしかねる」（広報調査課）

解説

『二つの筑波大学』の矛盾

二十年前、既に死語になりつつあるが、「新構想大学」として出発した筑波大学は、それまでの大学には無い新しい考えが実施された。その中核となったものの一つに「中央管理方式」がある。筑波大学の前身となった東京教育大学はキャンパスが三ヵ所に分かれていて、また五つあった学部がそれぞれ権限を持っていて全学的な意思の形成に苦労した。特に筑波への移転の時に賛成の学部と反対の学部の間で、警察が導入されるほどの混乱が起きた。

その反省にたって、筑波大学は一つのキャンパスの統合、学長・副学長を中心とする大学執行部へ大学運営の権限を集中させる、いわゆる「筑波方式」が採用された。

ところが、平成元年文京区大塚の旧東京教育大学跡地へ、一連の疑惑の舞台である経営・政策科学研究科経営システム科学専攻を含む、社会人用夜間大学院修士課程が設置された。中央管理システムの中の「二つの筑波大学」、それは事務機構上から見てもいかにも苦しいものとなった。本紙の連載の中でも取り上げたが、大塚地区を統括する学校教育事務部は事実上様々な部局の仕事をこなしている。それと筑波大学独特の「事務区」制度との関係は不明確である。

筑波と大塚、直線で六十キロ離れた両キャンパスの距離は、意識の上で思いの外遠い。筑波キャンパスの学生で大塚の存在を知らないという人は多い。また、大塚の教官の間にも、「自治・独立志向」が漂うのは隠せない。中央管理システムは、予定になかった「第二キャンパス」と二十年前には想像の段階であった社会人大学院という存在には対応しきれていない。

その結果として様々なほころびが起きている。今回取り上げた三つの問題は残念ながら「氷山の一角」である。もちろんこれらもそれぞれが、大学という教育機関の根幹に関わるものばかりである。

サバティカル制度にしてもウェーバー制度にしても一歩間違うと学生にとって大きな不利益になりかねないものである。本紙の取材に対して大学本部は「そのような制度は存在しない」と答えた。それが本当なら、各教官は一年のうち三分の一は授業をしなくてもよいことになる。多いときには専攻の三分の一に及ぶ教官がいなくなる。ウェーバー制度は、基礎科目の一部と専門科目が対象となっており、認定されるのは十単位までとなっている。認定を受けたい学生は、教務担当教官に申し出ることにより、もかかわらず「ウェーバーなどという制度は聞いたことがない」（文部省 大学改革推進室）「ウェーバー、サバティカルのどちらも行われていない」（筑波大学 広報調査課）と、大学本部と経営システム科学専攻の連携の不足、同専攻の独断専行ぶりが目立っている。

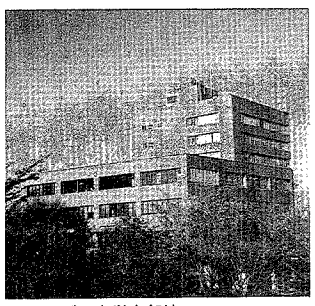
吉田講師や指導教官はこれらを否定するが、明らかになっていない部分も多いため、裁判は長引くものと慎重さが求められている。もし、これが筑波キャンパスで行われていたら、大学本部が知らないという事にならないだろう。ここに「二つの筑波大学」に対応しきれていない、中央管理システムの意外な現実が浮かび上がる。

募集要項に載っていない部局の仕事をこなしている。それと筑波大学独特の「事務区」制度との関係は不明確である。

筑波と大塚、直線で六十キロ離れた両キャンパスの距離は、意識の上で思いの外遠い。筑波キャンパスの学生で大塚の存在を知らないという人は多い。また、大塚の教官の間にも、「自治・独立志向」が漂うのは隠せない。中央管理システムは、予定になかった「第二キャンパス」と二十年前には想像の段階であった社会人大学院という存在には対応しきれていない。

その結果として様々なほころびが起きている。今回取り上げた三つの問題は残念ながら「氷山の一角」である。もちろんこれらもそれぞれが、大学という教育機関の根幹に関わるものばかりである。

サバティカル制度にしてもウェーバー制度にしても一歩間違うと学生にとって大きな不利益になりかねないものである。本紙の取材に対して大学本部は「そのような制度は存在しない」と答えた。それが本当なら、各教官は一年のうち三分の一は授業をしなくてもよいことになる。多いときには専攻の三分の一に及ぶ教官がいなくなる。ウェーバー制度は、基礎科目の一部と専門科目が対象となっており、認定されるのは十単位までとなっている。認定を受けたい学生は、教務担当教官に申し出ることにより、


▲つくばの大学本部棟

▲東京都文京区の大塚キャンパス

企業推薦問題についても本部棟は「知らない」と言う。仮にも全国紙で取り上げられた問題を把握していないというのもおかしな話だが、これも筑波と大塚の関係を象徴していると言えるのではないか。そして、本紙が五月から取り上げてきた「論文著者名すり替え疑惑」もその根幹にあるのは、従来の大学にない新しい人事システムが「独立・自治」の大塚キャンパスの研究科に対して有効に機能していないという問題である。

そして、これらの問題を取材しているうちに見えてきたのが、経営システム科学専攻内の人々が一種の強迫観念―もしこれらの問題が公になれば「研究科の不利益になる」「この研究科がつぶされてしまう」―におかされているということである。それは逆に言うなら彼らの筑波からの独立志向を示す事でもある。これは筑波大学構想が否定した「部局セクト主義」そのものである。

背景には、繰り返しになるが、二十年前の「新構想」が現在の新しい状況に対応しきれていないという事があろう。今年から改革担当副学長がおかれるなど、筑波大学は組織見直しが始まっている。しかし、本紙の取材に答えたように、これら教育・研究に関わる重大な問題を大学本部棟が「知らない」というのが本当なら、これから行われるであろう改革は不完全なものになってしまうのは間違いないと言える。

宿舎 いたずら電話の実態

手立てのない現状

真夜中、突然掛かってくる電話。それが、嫌がらせや暇つぶしのいたずら電話であったなら、多くの人が不快な気持ちになるのは当然であろう。そのいたずら電話に関して筑波大学学生宿舎内の女子学生を対象にアンケートを行ったところ、回答者の三分の二が、いたずら電話の掛かってきた経験があると答えた。

アンケートの質問は、いたずら電話の内容及び掛かってくる時間帯について。内容について、一番多いのはいやらしいことを話題にするもの、次が無言電話であった。又、コンパの罰ゲームとしていたずら電話をしているそうだ。まず電話のベル音の長さで、いたずら電話が掛かってくるかお調査する。（ベル音が長ければ内線、短ければ外線）。外線からのものであれば、番号を変えることができる。昨年は二件の変更があった。内線の場合は、簡単に番号を変えることができない。それは、内線番号を一つでも変更させてしまうと、管理しやすく設定してある現在の宿舎内線電話システム全体の管理構成が崩れてしまいかねない為だという。また、約百本程ある内線番号のストックを番号の変更に用いることも可能ではあるが、それらは今後、新たな宿舎を建てるというような場合に備えて残しておきたいとのことであった。その為、内線でのいたずら電話の場合は、しばらく様子をみてもらう。その後も非常に悪質ないたずら電話が続く場合、学生の訴えに基づく大学厚生課からの要請があれば、やむをえず犯人の調査や内線番号の変更もあるという。

また、個人のいたずら電話に対する対策として、宮崎建設課長は「留守番電話と取材を拒否した。

……

本掲載について、これまで読んだことがない、見直したいという人にはこれをまとめたものをお分けいたします。当会までご請求ください。

また意見・感想、新たな情報などもお待ちしております。

自主休講

昨今、漫画の主張が甚だしい。それは情報化社会のメディアらしく、視覚から速やかに我々に飛び込んでくる▼「活字離れ」が進んでいると言われ、小学校の図書館では、その歯止めとして漫画を取り入れようという動きもあり、賛否両論当時の話題を呼んだ。「漫画は低俗であり、文字は高貴である」という認識は案外根強い。一般に、文字の方が扱っているテーマが幅広く、また、文字にしか高度な問題は扱えないと思われがちなのである▼しかし、流通の上では、今や漫画は文字を遥かに凌いで、子供向けの漫画では、百万台の部数も珍しくないという▼『ゴーマニズム宣言』の小林よしのりは、「もう活字には、殆ど力がないように思える。漫画だからこそ次の世代が見えてくるし、インパクトを持って伝えられる」と語る。氏が漫画で扱うテーマは、部落差別問題、天皇制、慈善問題など幅広く、それぞれの社会現象に正面からもの申す、という勢いだ。また、抽象度が高く、難解でシュールな「想像の現実」に遊ぶ、つげ義春の漫画も、芸術的によく注目される。その作品を、「高度資本主義によってもたらされた七〇年代のつかみどころのない情況に対する静かな抗い」と評する評論家もいる。作品に流れる作者の意識、無意識の世界は、文字の上だけの話ではないのだ▼近ごろは、漫画で分かりやすく説明された専門書や参考書まで登場している。もはや、漫画は市民権を獲得し、メディアに新風を注ぎ込んでいるのだ。漫画が、知識人や文字の送り手の妬みによって、ないがしろにされる時は終わったのである。互いの特色を理解し合い、それぞれの長所を取り入れられたら、なおさら良いだろう▼この混沌とした情報化社会の中で、それぞれのメディアが自己のフィールドを越え、更に我々に情報の選択を迫り続ける。

（長谷部）

頑張れ受験生！
筑波大生行きつけの美容室です。
美容室 サップ S・A・P
クリーニングケンクロウ
美容室サップ2F
弾計の看板
セブンイレブン
松見タクシー
北大通り
公園
コーヒーの中山
友明堂
ライト・オン
てらしま
桜ケ丘歯科
東大通り
SALON HOURS 月～土 AM10:00～PM7:30 日 AM10:00～PM6:00
CLOSED ON 毎週水曜日・第2・第3火曜日
つくば市吾妻3－7－14鈴木ビル2F
☎(0298) 55-2436

車検整備・鈑金塗装
格安コース＝Aコース
おまかせコース＝Bコース
※電話見積・ローン扱いOK
一般修理・オイル交換
有限会社 山一オート
つくば市大字要2番5
TEL 0298-64-1311
山一オート
ループ
ヤマト便
九州石油
西大通り
東大通り
三菱石油
松乃屋
50m

―定期講読受付中―
転居された方
当会までお電話を
次号は一月十日(火)発売
購入は書籍部・コンビニで
筑波学生新聞
52-4460

一般・小児・矯正
医療法人 恵園会
桜ケ丘歯科
診療時間（9:00～18:00）
日，月，祭日，休診
吾妻3－17－6
東大通りぞいTEL 0298-52-1518

自動車保険代理店
有限会社 ホソダ
車検整備・鈑金塗装
新車・中古車販売ローン取扱い
つくば市天久保2－23－2
TEL (0298) 51-2166㈹
FAX (0298) 52-7657
自宅TEL (0298) 51-2696
筑波山
筑波大
ホソダ
ニッサン
ココス
味の民芸
至 土浦
荒川沖

運転免許
★低料金
★早い卒業
★安心
公認 明野自動車学校
0296(52)2811
筑波大学生申込所
筑波学生教職員生協
0298(58)1207

解説

CAMPUS「回収」事件を見る

～霧の中で「解決」された不当な論理と行為～

奇妙な事件

この事件では、奇妙な点が多い。まず、Campusを「盗まれた」側の全代会関係者の反応がすっきりしないのである。橋本議長は怒りを隠せない様子だったが、実際記事をチェックしていた場合、どう対応したかについて、議長は「そのまま通した」、副議長は「やめさせた」と議長団の間で統一がなされていない。また、当のCampus編集の対応も正直鈍い。全代会の公式な広報紙。つまり、大学の公式な出版物が盗難されたというのに、今さら「対応策を話し合い中」ではないだろう。すぐにでも容疑者をあたるべきだろう。全代会側とAmuseとが非公式な話し合いをもったという情報もあったが、取材は拒否された。その後、問題の部分を塗りつぶした同紙が配布され直したが、それはとても「解決」とはいえない。脅迫に屈したと取られてもしかたないだろう。

Amuseへの疑問

編集後記の問題部分はAmuseのディスコを批判していたが、確かにあの企画に対しての疑問の声は少なくない。後夜祭をAmuseが取り仕切るようになった経緯、その資金はどうなっているのか、等である。Amuseはディスコについて「援助金は去年は二十三万円、今年は四十万円だった。足りない分は模擬店の収入で補っている」という。ところが、学実委は、「あのディスコはあくまで後夜祭の一環である。Amuseには事務経費の二万円ほどしか出していない」といい、また、「後夜祭をやるには、学実委の人数が足りないため、彼らの力を借りた」としている。

しかし、それならばAmuseのメンバーに学実委に加わってもらうのが筋だろう。彼らが援助金を四十万もらったのか、二万もらったのかの問題ではない。事実として彼らは四十万円分の資金が必要な「二千人の野外ディスコ」という大企画をAmuseの名の下におこなった。学生の払った分担金を使って。そして彼らは企画サークルの命である「知名度」四十万円分をやるには、学実委の人数が足りないため、彼らの力を借りた」としている。

短絡的な犯行

もちろん、今回一番非難されるべきは「回収」をおこなった犯人である。自分の気に入らない文章があるからといって、こっそりと公共の出版物を回収するという行為は情けない上に、とんでもない犯罪行為である。もし、仮にAmuseの代表がいうように彼らの関係者がこれをおこなったのなら、本当に恥ずべきである。Amuseの側のチェック体制が甘過ぎてないか、ということである。仮にも全代会という公的機関の広報紙が、一サークルを批判するというにはあまりに軽率すぎたといえよう。取材中一印刷のために提出した学生担当教官室も、素通りの状態だった」という発言も聞かれた。また、配布の方法も問題が残る。何者かに簡単に持っていかれるような配布方法でいいのだろうか。学類によってはクラ代を通じて配布している場合もあるが、それはすべてのクラスではない。この点にも再検討が必要なのではないか。

CAMPUSにも不可解な点

ここでCampusの側の問題点も指摘しておきたい。記事のチェック体制が甘過ぎてないか、ということである。仮にも全代会という公的機関の広報紙が、一サークルを批判するというにはあまりに軽率すぎたといえよう。取材中一印刷のために提出した学生担当教官室も、素通りの状態だった」という発言も聞かれた。また、配布の方法も問題が残る。何者かに簡単に持っていかれるような配布方法でいいのだろうか。学類によってはクラ代を通じて配布している場合もあるが、それはすべてのクラスではない。この点にも再検討が必要なのではないか。

なお「回収」犯人が本紙をも回収しようという場合には、書籍部なり、コンビニなりにきちんと代金を支払うことをお勧めする。今度はれっきとした犯罪行為となる。（渡辺）

「気にいらない」記事の抹消をはかる

行為だということを認識して欲しい。「読んでいる人が少ない」「ご自由に」だから持っていった」という。なぜ「回収」犯人が本紙の代弁者」である正副座長が、その立場とは別に、それらの専門委員会などにも所属している。この専門委員会は、それぞれの担当の問題について、広く学内の意見を徴収し、会議に出す「議案の作成」をしなければならない。この「議案作成」時の立場は「学類の代表者」ではなく、「委員会の立場」となる。

組織改編実施の後、全代会構成員に残されるのは、この「委員会」の立場と、初めに述べた「学類の代表」の立場の二つである。「委員会の立場」は、全学の学生のことを考え、全学的な見地で仕事を進めなければならない。一方、専門委員会から出された議案については、構成員は、「学類生の代表」の立場で、それぞれの学類の見地から発言する。

＊

「全学的見地」と「学類の見地」この二つが会議において、しばしば混同されるようなことがありつつも、今回の組織改編では、この二つの立場が分離されることにはなっていない。それは改編後の全代会構成員にも残されることになる。（三宅）

全代会・全学学類専門学群代表者会議
クラ代会・クラス代表者会議
学類・学類、専門学群

新しい学生組織の行方

組織改編に着手

筑波大学学生組織「クラス制度と全代会」は、二段階となった意向反映経路など、著しい規則と現状のズレを抱えている。そして、規則成立から二十年ほどたった現在、全代会運営専門委員会は「組織改編」に着手し始めた。規則を現状に即するように見直そうとするものである。今回は、その学生組織の二段階意向反映経路の担い手「座長、副座長」を苦しめる『二重の立場』、また、組織の最上部「全代会」の「構成員」に存在する『二重の立場』について解説する。この二つの「二重の立場」とはいったい何か、そして組織改編により、いかに変わって行くのか。

全代会構成員は、各学類のクラ代会から選出される「座長、副座長」と呼ばれる人たちで構成されている。その学類の座長、副座長には「二つの立場」が存在する。

クラ代会はクラス代表者の集まりで、新歓行事、クラス連絡会などの仕事を行っている。そして座長、副座長が、その会議の議事進行、運営などを司る。クラ代会の中から、会議をまとめる役として選ばれる正副座長は、「クラ代会を統括する立場」にある。

正副座長は、その上の組織、全代会において、クラ代会で議論した学類の意向を報告する「クラ代会の代弁者」となる。クラ代会から選出され、クラ代会の意見を代弁する各学類の正副座長たちは、全代会において、「学類の代表者」という立場で存在する。

「クラ代会統括」、「学類の代表者」、この二つの立場は、学類の正副座長を過負担にさせている。正副座長は、全代会、クラ代会と、それぞれの組織の仕事をこなさなければならない。全代会の仕事で手がいっぱいのときは、クラ代会の方まで行き届かないなど、二つの立場に追われる現状となる。

学生組織改編のプランでは、全代会構成員（正副座長）の負担を軽減させるため、次の方策が組まれている。「クラ代会の運営に関する業務を座長団とは別につくった、議長団に任せる」というものである。いくつかの学類では、すでに議長団の枠をクラ代会内に作っているところも存在しており、これを制度として、全学的に導入しようというものである。実施されれば、正副座長は、「学類の代表者」としてクラ代会の意向を全代会に報告する「代弁者」の立場に一本化され、クラ代会の運営業務は、新たに設けられた議長団の手に渡る。改編により正副座長の「二つの立場」は消える予定である。

＊

各学類から「学類の代表者」として選ばれた正副座長には、全代会において、新たに「もう一つの立場」が待ちうけている。

全代会には全学的な事項を扱う、「委員会」がある。厚生、運営、教育課程、学内行事、課外活動専門委員会に加え、広報委員会などがそれである（学園祭実行委員会は少し異なる）。例えば今年度、厚生専門委員会は駐車場問題や宿舎の問題を、教育課程専門委員会はカリキュラムについて、運営専門委員会は学生組織の規則改編などに取り組んでいる。専門委員会は全代会構成員、つまり各学類の正副座長が兼任するかたちになっている。「クラ代会の代弁者」である正副座長が、その立場とは別に、それらの専門委員会などにも所属している。この専門委員会は、それぞれの担当の問題について、広く学内の意見を徴収し、会議に出す「議案の作成」をしなければならない。この「議案作成」時の立場は「学類の代表者」ではなく、「委員会の立場」となる。

組織改編実施の後、全代会構成員に残されるのは、この「委員会」の立場と、初めに述べた「学類の代表」の立場の二つである。「委員会の立場」は、全学的な見地で仕事を進めなければならない。一方、専門委員会から出された議案については、構成員は、「学類生の代表」の立場で、それぞれの学類の見地から発言する。

＊

「全学的見地」と「学類の見地」この二つが会議において、しばしば混同されるようなことがありつつも、今回の組織改編では、この二つの立場が分離されることにはなっていない。それは改編後の全代会構成員にも残されることになる。（三宅）

全代会・全学学類専門学群代表者会議
クラ代会・クラス代表者会議
学類・学類、専門学群

—「学類代表」と「委員会」—立場の重複新組織に残る

つくばの住を求めて

第一回 自動販売機

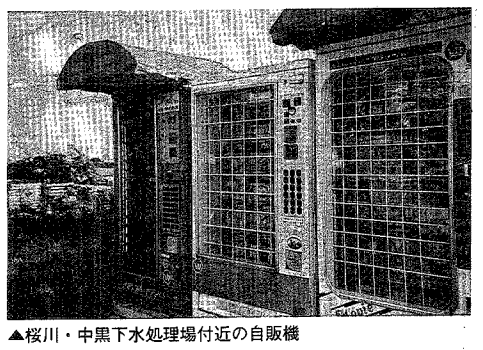
大学周辺ではほとんど見かけることのない十八歳未満お断り自動販売機（以下、自販機）。内容を確かめることができないという致命的なデメリットを持ちながらも、人と顔をあわせることなく購入できるメリットが、自動販売機がなくならない原因だろう。夜、閑静な雰囲気のなかにポツンと輝くつくばの自販機の「今」を探ってみた。

普通、自販機は、住宅地に置かれていることは少ない。誰だって自分の家の前にそんなものがあっては、苦情のひとつも言いたくなるだろう。新聞の投稿欄にも、「子供の教育上、悪影響がある」と自販機の撤去を求める声が、ときどき見られる。また、「購入者が人に見られない」という大前提からも、住宅地は何かと不都合だ。そこで、自販機は個人商店の前か、空き地や田んぼの片隅に存在することになる。春日四丁目の自販機や学園線南、桜川近くの下水道処理場付近にある自販機は、その典型例だろう。

ところが、大学周辺やセンター地区には、個人商店や空き地がほとんどない。あるのは大規模店、スーパー、コンビニ、住宅地ばかりで、自然と自販機を置ける場所は少なくなる。学生の多さから見ても十分需要は見込めると思うのだが、もったいない感じがする。

＊

つくばにある自販機の中身は、首都圏だからか、時代の流れからか、新しいものが多い。



▲桜川・中黒下水処理場付近の自販機

移り変わる中身「本」から「ビデオ」「おもちゃ」へ

十八歳未満お断りの自動販売機といえば、当然連想されるのが、いわゆる"エロ本"である。劇画や投稿雑誌、写真風のものなど、さまざまなジャンルがとりそろえてある。しかし、かつて自販機に本だけしかなかった時と比べると、数は減少している。

本の代わりに多く見られるようになったのが、アダルトビデオである。ここ数年でアダルトビデオ市場は急成長を遂げたが、それが大きく反映されている。値段は三千円から六千円のものが多い。「大人のおもちゃ」やSMグッズ、生写真がついたパンティ＆ストッキングなんてものも並んでいたが、ダッチワイフまでもが売られていたのには驚いた。しかしダッチワイフは通信販売ぐらいしか入手方法がないのを考えると、すぐに手に入るという利点も加わり、買う人もいるかもしれない。

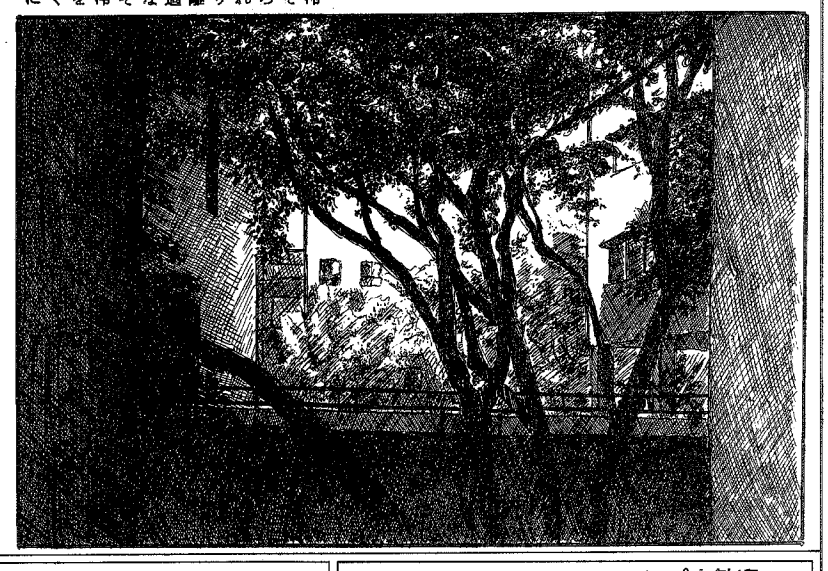
＊

つくばの性風俗の一端をなす自販機は、しかし今、存在自体が危うくなっている。十一月十五日、県は有害図書、有害ビデオ、「大人のおもちゃ」を扱う自販機の規制を、これまで以上に強化する方針を明らかにした。かつてのポルノコミックのように、自販機も規制の波にさらされている。（本紙取材班　井上・加藤・三宅）

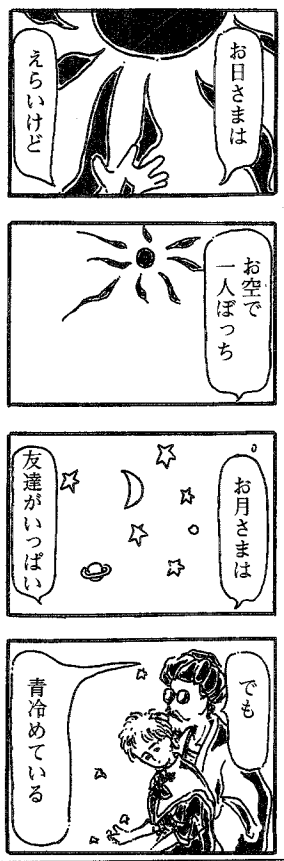
身近で美しい風景

～②第二学群B・C棟間の木～

校舎と校舎の間には、冷たく虚ろな空間がある。それを埋めようとしたのだろうか。一本の木が植えられている。暗くて、日当たりの悪い場所。森から切り離された場所。惜らを通り過ぎる人々は、この木を見ない。こんな所でも健気にその枝は伸びているのに、冷たく無機的な校舎と対照をなして四季にうつろいゆくのに、一枚の生命ある絵になるのに。（村山）



ひとのめ7



インフォメーション

●筑波大学落語研究会
「落語の御歳暮」入場無料
日時　十二月二十二日午後五時三十分開場六時開演
場所　筑波大学追越共用棟娯楽室
連絡先　新井　〇二九八—五六—一八五二

VIVA SPORTS
スキーグッズ・スキーウェアー
スキーアクセサリー
スノーボード
スポーツ用品全般
スキー用具チューンアップ
営業時間
土・日 AM10:00～PM8:00
平日 AM10:30～PM8:00
TEL：0298-42-3109

がんばれ 筑波大
夢屋
営業時間 昼11:00～2:30 夜6:00～11:00
春日4-4-5 TEL 58-0668〈水曜定休〉

印度カリー専門店
タンドリ
平日 AM11:00～PM2:00 PM5:00～PM9:30
土・日・祭 AM11:00～PM3:00 PM5:00～PM9:30
土・日・祭 AM11:00～PM3:00まで
「大学生の食事につき5%割引いたします。」
●場所　友朋堂書店前　●TEL：0298(51)5672

よいクルマ よいサービス
トヨタレンタカー
TEL 51—0100

Salon de
Adonis
アドニス
〒305 つくば市天久保3-4-8
柴崎ビル1F
TEL 0298-58-3653
受付時間 9:00～19:00（パーマ18:00まで）増毛コース有
定休日 毎週火曜日 第2、第3月火連休

居酒屋
大将
コンパ大歓迎
月曜チューハイ半額
大学会館そば
営業時間PM6:00～AM2:00
TEL 52-7510 火曜定休

コンパはおまかせ！
酒・たばこ・米
みやもと
天久保2丁目(味の民芸裏)
TEL 52-1960

ハシモト
つくば店
メガネのハシモト
ココス
スーパージャンボ
至筑波
学園東大通り
郵便局
学生寄宿
正大通り
〈コンタクト定検〉
日 PM4:00～6:00
月・木PM2:30～4:30

心のふれあいを大切にする　自転車販売・修理
定休日(水)
ブリヂストン・ミヤタ・パナソニック・輸入車(トレック・ジャイアント)
他車各種取り扱い
松見商会
☎0298—51—1453
つくば市吾妻3-15-12

CREATIVE HOUSE
AKUAKU 1979-1999
COFFEE
お食事
お酒
JAZZ, ART
……
つくば市天久保2-6-1
TEL0298-51-4147
[pm5:00～am2:00]

CO-OP
TSUKUBA
筑波学生教職員生協
OPEN 10:00AM～8:00PM
日曜・祝日定休
〒305 つくば市天久保2-9-2
リッチモンド2番街
☎0298-58-1207

筑波大生のための店
R.S.
高画質・高速・全自動コピー……1枚10円
お振り作業もいたします
（特別作業以外は無料・通常翌日）
高速ワープロ入力サービス・金文字製本・FAX送信・受信サービス
●各種紙製品取扱い。（更紙・中質紙・上質紙他）
●各種製本できます。(3分)
●デジタルコピーサービス(5秒)
●フルカラーコピーサービス（A3からOHPまでOK）
●パンフレット・チケット・ポスター
●CDの印刷もできます。
●文具・事務用品(本棚・デスク)各種注文できます。
●5段スチール本棚(格安)
●印刷関係用品格安。
つくば市天久保3-9-6(大学会館うら)
オオキビル2F ☎0298-51-6293
コピーサービス・文具・紙・製本(AM10:00～PM12:00)

新聞の御用命は…
朝日新聞・日本経済新聞
産経新聞・その他諸新聞
(有)長谷川新聞舗
つくば市天久保3丁目18の1 TEL(51)0577代表
フリーダイヤル0120-39-0008

BRIDGESTONE
常磐高速24時間緊急サービス工場
各種タイヤ割引セール
塚田タイヤセンター株式会社
つくば市春日4丁目17-18
TEL 0298-51-4144 FAX 0298-51-4146

毎時間完全送迎
親切で、納得のいく指導
早い上達・早い卒業
つくば市寺具中台1268-2国道125号線沿間東バス停あり
☎0298(69)0931(代表)
あなたのおいでをお待ちします。
茨城県公安委員会指定
公認 上筑波自動車学校

——全館ビッグバーゲン開催中——
●カラーテレビ ●ビデオ ●ステレオ ●CDラジカセ ●パソコン ●ワープロ
●ファクシミリ ●電子手帳 ●電卓 ●冷蔵庫 ●洗濯機 ●留守番電話
●クリーナー ●アイロン ●カミソリ ●電子レンジ ●電気炊飯ジャー ●トースター
●エアコン ●ビデオソフト ●輸入・国内CD ●ゲームソフト ●Jリーググッズ ●電化製品全般
お客様第一・良心経営
石丸電気
つくば店
茨城県つくば市東新井31-13
TEL 0298-51-1400(代表)
営業時間 午前10時～午後7時半
(金曜・土曜は午後8時まで)